

株式会社アーレスティ

2014年3月期 第2四半期 決算説明資料



2013年11月29日

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。

ご説明内容

- ◆ TOPICS
- ◆ 2014年3月期第2四半期決算概況
- ◆ 今期の見通し

■2013年

- 3月 旧浜松工場の旧豊橋工場へ(東海工場)の集約完了
アーレスティプリテック豊橋工場増築工事着工
- 4月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第1期工事竣工
アーレスティウイルミントン増築工事着工
- 7月 アーレスティプリテック豊橋工場増築工事竣工
- 8月 アーレスティウイルミントン増築工事竣工
- 9月 合肥アーレスティ拡張工事竣工
アーレスティインディア工場拡張工事着工
- 10月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事着工

今後の予定

■2014年

- 7月 アーレスティインディア工場拡張工事竣工予定
- 9月 広州アーレスティ隣接地での工場建設第2期工事竣工予定

広州アーレスティ第3工場建設 第2期工事着工

広州阿雷斯提汽车配件有限公司

■第3工場建設

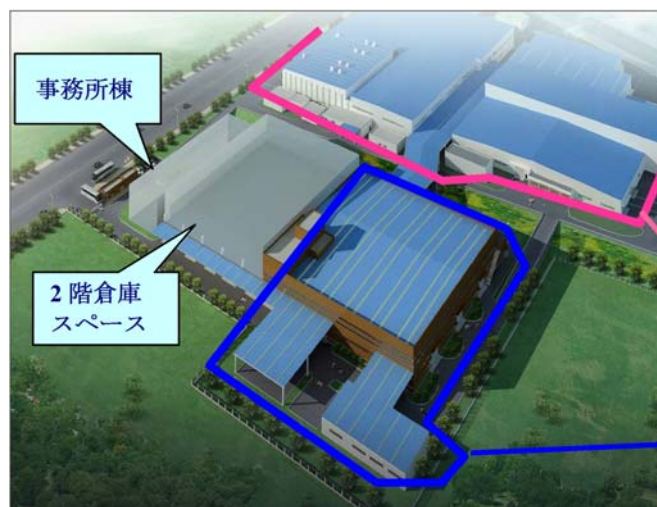
第1期工事

2012年5月着工
2013年4月竣工

第2期工事

2013年10月着工
2014年9月竣工予定

※第2期工事では事務所棟と
製品倉庫を建築



借りている3つの
工場を第3工場
に集約し物流等
の効率化を図り、
増産に対応

第1工場

第3工場
第1期工事

第1工場と第3工場 第1期工事、第2期工事エリア

2013年11月現在

(面積)	第1工場 土地 43,000㎡ 建屋 26,300㎡	
	第2工場 土地 17,700㎡ 建屋 10,400㎡	
	第3工場 土地 21,100㎡ 建屋 16,000㎡(第1期) 建屋 8,700㎡(第2期)	
(ダイカストマシン)	31台	(鑄造能力) 月産2600t

2014年3月期第2四半期決算概況



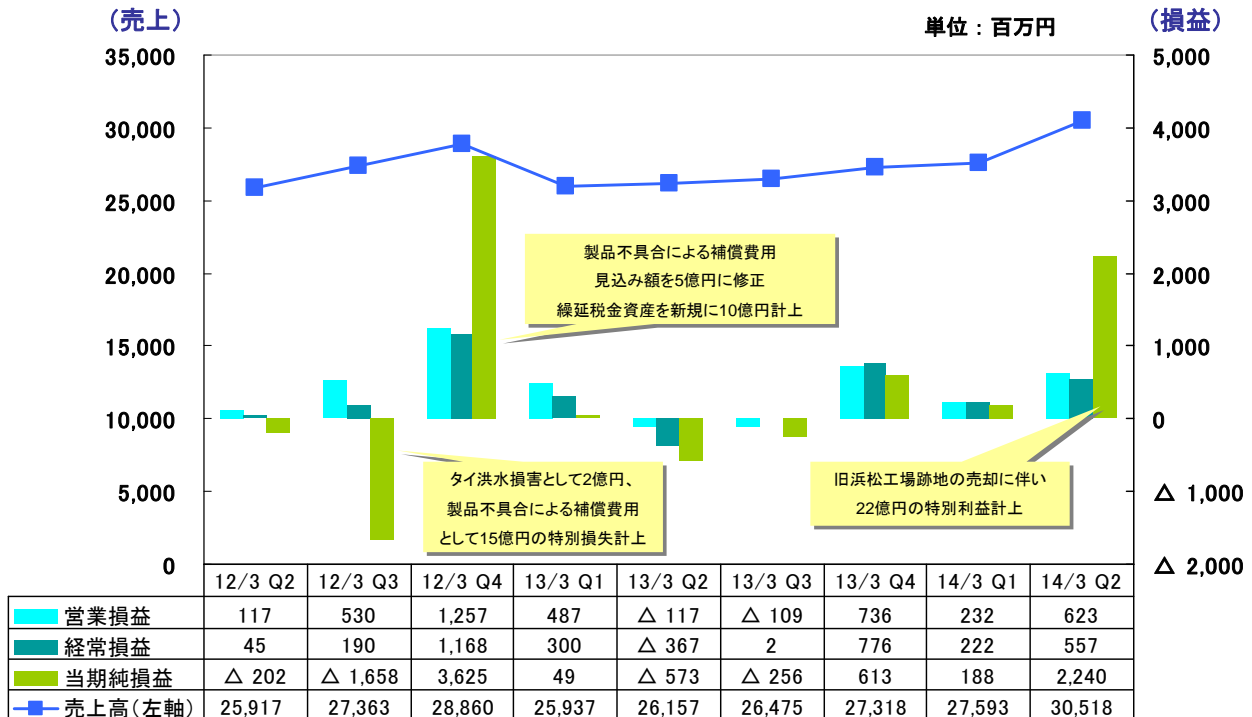
2014年3月期上期決算のポイント

(単位: 百万円)

	2013年3月期 上期		2014年3月期 上期		増減	
売上高	52,094	100%	58,111	100%	6,017	11.5%
営業利益	370	0.7%	855	1.5%	485	130.7%
経常利益	△ 67	△0.1%	779	1.3%	846	—
四半期純利益	△ 524	△1.0%	2,428	4.2%	2,952	—
EPS	△ 24.33		112.57		136.90	

- ◆ 売上高: 国内では軽自動車の販売や北米向け輸出が好調だったものの、エコカー補助金終了による反動減等の影響(特に1Q)により減少し、海外では受注増と円安基調にある為替影響等により、売上高は581億円(前期比11.5%増)と増加した。
- ◆ 営業利益: 国内売上高の減少による影響があったものの、今期より変更した減価償却方法の影響による増益効果に加え、原価低減効果等により、営業利益は8.5億円(前期比130.7%増)となった。
- ◆ 経常利益: 前年同期は営業外費用として為替差損169百万円を計上したが、今上期は営業外収益として為替差益250百万円を計上していることが、営業外収支の主な差異であり、経常利益は7.7億円となった。
- ◆ 四半期純利益: 増減の主な理由は、旧浜松工場跡地の売却による特別利益22.8億円の計上による。

連結決算概要(四半期別)



ダイカスト事業

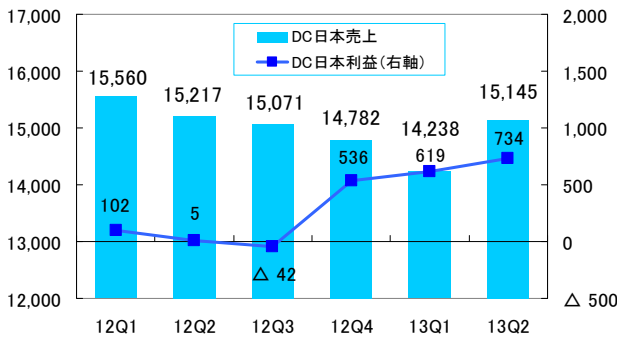
(単位：百万円)

		2013年3月期 上期	2014年3月期 上期	増減	
日本	売上	30,777 100%	29,383 100%	△ 1,394	△4.5%
	セグメント 損益	107 0.3%	1,353 4.6%	1,246	1,160.5%
北米	売上	10,699 100%	15,336 100%	4,637	43.3%
	セグメント 損益	496 4.6%	△ 25 △0.2%	△ 521	△105.0%
アジア	売上	8,089 100%	10,166 100%	2,077	25.7%
	セグメント 損益	△ 263 △3.3%	△ 496 △4.9%	△ 233	-

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明。

ダイカスト日本

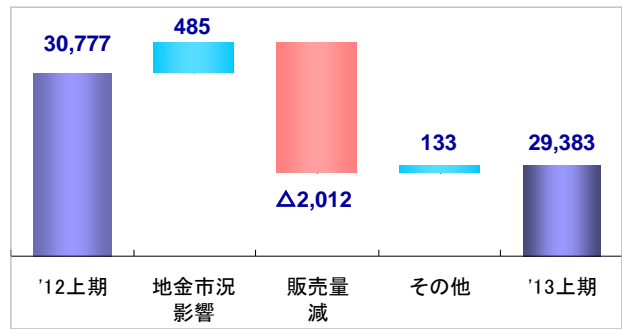
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



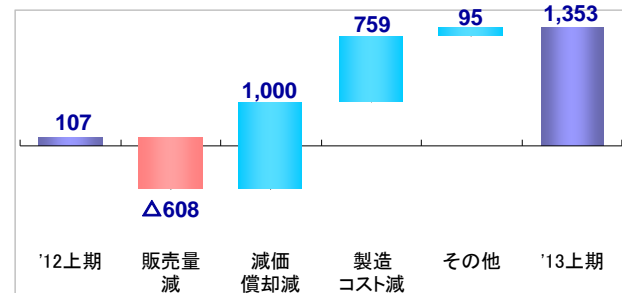
上期は軽自動車の販売や北米向け輸出が好調だったものの、エコカー補助金終了による反動減等の影響により受注が減少し、売上高は293億円(前年同期比4.5%減)となった。

セグメント利益は、販売量減少の影響があったものの、減価償却方法の変更を含む減価償却費の減少、製造コスト削減の効果等により、13.5億円(前年同期比12.6倍)となった。

売上高増減要因 (百万円)

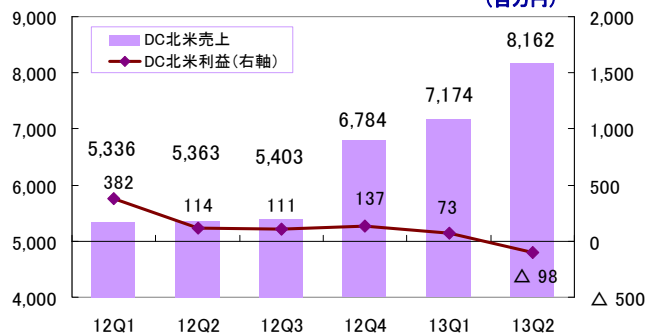


セグメント損益増減要因 (百万円)



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



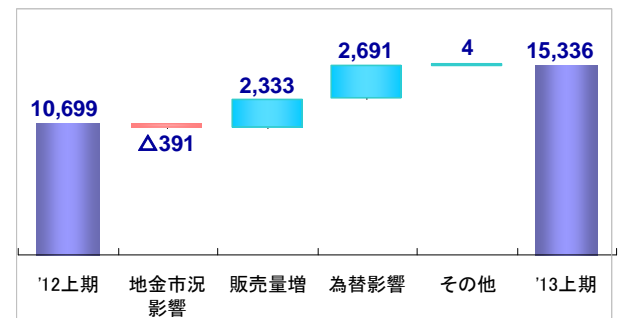
アメリカ: 上期は好調な自動車販売から受注が増加、また円安基調にある為替影響もあり売上高は増加するも、固定費の増加により一時的に収益が減少。

メキシコ: 受注の増加に加え為替影響も相まって売上高は大幅に増加するも、高負荷に伴う製造コストの増加及び減価償却費の増加の影響等によりセグメント利益は減少。

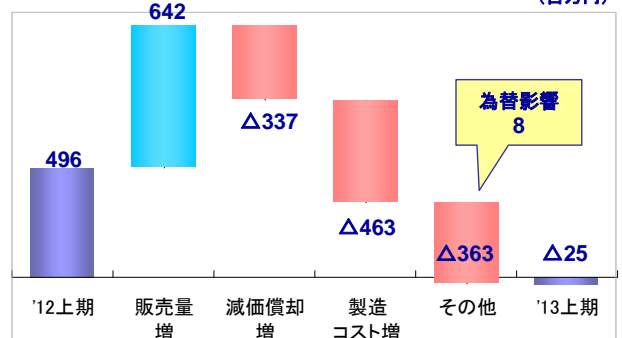
※アメリカ 4-3月
メキシコ 1-12月

平均レート(12上→13上)
米\$ 79.42→97.99
メ\$ 79.48→94.56

売上高増減要因 (百万円)

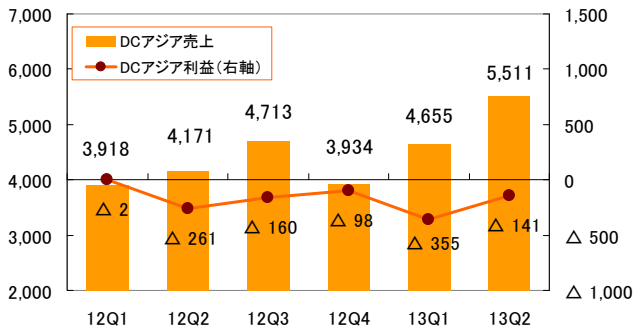


セグメント損益増減要因 (百万円)



ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)

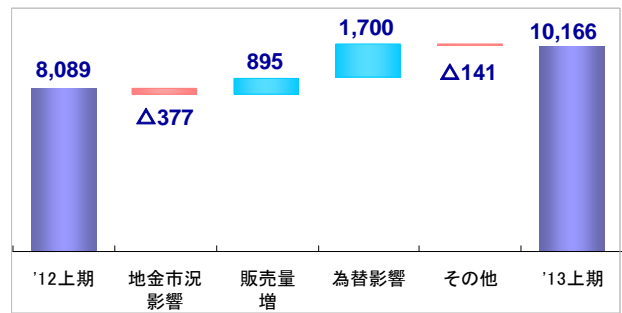


中国：日中関係の動向を受けて減少した自動車生産が従来の状態まで戻っていない中、為替影響を除く売上高は横ばい。減価償却費の増加、日本へのロイヤリティ支払の増加等の影響により、利益は減益。
 インド：売上高は想定を下回っているものの前年同期より増加し、減価償却方法変更の影響も相まって、損失は縮小。

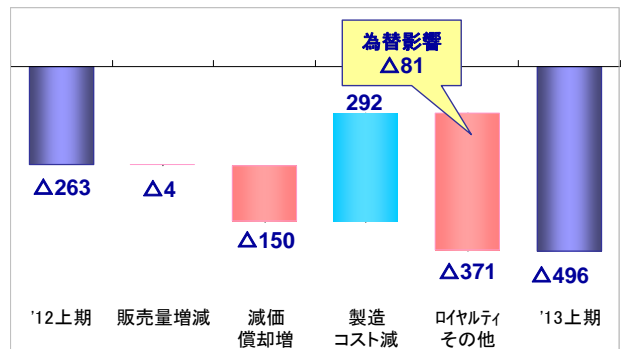
※中国1-12月
 インド4-3月

平均レート(12上→13上)
 人民元 12.59→15.29
 インドル比 1.47→1.67

売上高増減要因 (百万円)



セグメント損益増減要因 (百万円)



アルミニウム事業及び完成品事業

(単位：百万円)

		2013年3月期 上期	2014年3月期 上期	増減	
アルミニウム 事業	売上	1,834 100%	2,228 100%	394	21.5%
	セグメント 損益	45 2.5%	22 1.0%	△ 23	△50.0%
完成品事業	売上	693 100%	995 100%	302	43.5%
	セグメント 損益	△ 32 △4.7%	13 1.4%	45	—

アルミニウム事業： 上期は、二次合金地金の出荷量が前年同期比で9.2%増となったことに加え、為替影響により販売単価がアップしたこともあり、売上高は21.5%増。セグメント利益は、原材料市況の影響等により50%減となった。

完成品事業： 主要販売先である半導体関連企業や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が増加し、売上高は43.5%増加。セグメント利益は、売上高増加の効果等により、13百万円となった。

貸借対照表

(単位：百万円)

	2013年3月期	2014年3月期 第2四半期	増減
流動資産	37,153	39,353	2,200
現預金	6,087	4,684	△ 1,403
売上債権	18,620	21,903	3,283
棚卸資産	9,417	9,903	486
固定資産	73,599	83,082	9,483
有形固定資産	65,150	72,541	7,391
資産合計	110,752	122,436	11,684
負債合計	71,416	76,895	5,479
買入債務	16,001	17,078	1,077
長短借入金	38,662	40,710	2,048
純資産合計	39,335	45,540	6,205

- ◆ 資産合計の増減のうち6割程度が為替影響による
- ◆ 売上増に伴い売上債権及び棚卸資産が増加
- ◆ 主に海外での事業拡大投資より有形固定資産が増加
- ◆ 営業CFを超える投資資金を現預金の減少と借入金で調達
- ◆ 純利益の増加のほか、為替換算調整勘定の増加、有価証券評価差額金の増加により純資産が増加



今期の見通し



2014年3月期業績予想

(単位:百万円)

	2013年3月期		2014年3月期 前回計画(8/8)		2014年3月期 今回計画(11/11)		対前回計画増減	
売上高	105,887	100%	122,300	100%	123,500	100%	1,200	1.0%
営業利益	997	0.9%	3,050	2.5%	3,550	2.9%	500	16.4%
経常利益	711	0.7%	2,400	2.0%	2,750	2.2%	350	14.6%
当期純利益	△ 167	△0.2%	3,950	3.2%	4,100	3.3%	150	3.8%
EPS	△ 7.76		183.10		190.05		6.95	

- ◆ 売上高: 国内は主要顧客の増産により当初計画よりも増加の見込み、一方海外は北米では前回計画を据え置くもののアジアで前回計画よりも減少が予想され、連結売上高は前回計画比12億円の増加を予想。
- ◆ 営業利益: アジアでの売上高の減少による影響はあるものの、主に国内の増収に伴う効果により、前回計画比5億円増を予想。
- ◆ 当期利益: 旧浜松工場跡地売却による約22億円(上期実績)、投資有価証券の一部売却による約8億円を特別利益として織り込み。
3Q以降の前提為替レート: 98円/米ドル、15.3円/人民元、1.75円/インドルピー(前回計画と同じ)

2014年3月期業績予想

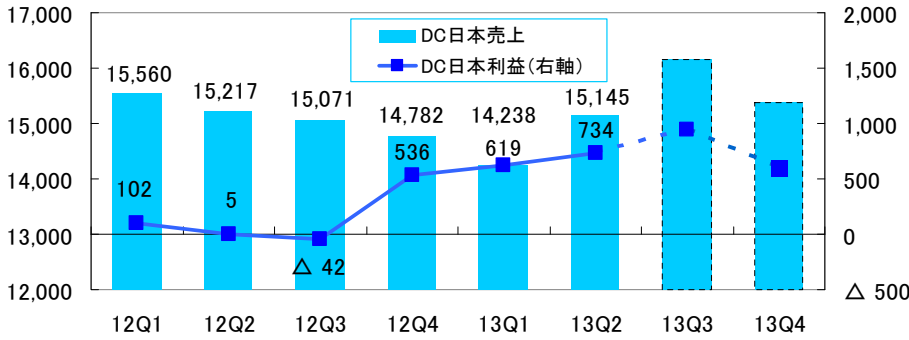
(単位:百万円)

	2013年3月期 実績	2014年3月期 前回計画(8/8)	2014年3月期 今回計画(11/11)	対前回計画 増減	対前回計画 増減率
売上高	105,887	122,300	123,500	1,200	1.0%
ダイカスト日本	60,630	59,100	60,900	1,800	3.0%
ダイカスト北米	22,886	33,000	33,000	—	—
ダイカストアジア	16,736	23,900	23,300	△600	△2.5%
アルミニウム	3,840	4,400	4,400	—	—
完成品	1,793	1,900	1,900	—	—
営業利益	997	3,050	3,550	500	16.4%
ダイカスト日本	601	2,350	2,900	550	23.4%
ダイカスト北米	744	800	900	100	12.5%
ダイカストアジア	△521	△250	△350	△100	—
アルミニウム	50	100	50	△ 50	△ 50.0%
完成品	78	50	50	—	—
消去または全社	45	0	0	—	—
経常利益	711	2,400	2,750	350	14.6%
当期純利益	△167	3,950	4,100	150	3.8%

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高/セグメント損益の推移 (百万円)

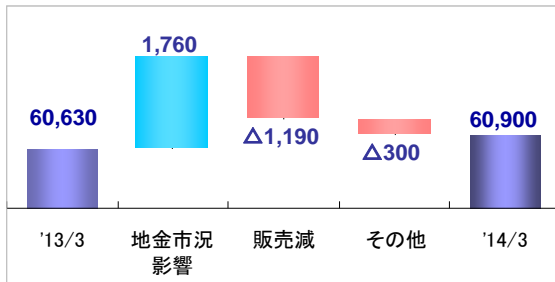
上期:売上高 29,383、利益 1,353
下期:売上高 31,517、利益 1,547



売上高: 主要顧客の国内生産増に伴い、前回想定の販売量減の影響は縮小される見込みであり、かつ、地金市況の影響もあり、前回計画比18億円の増加。4Qは消費税増税の反動により減少すると予想。

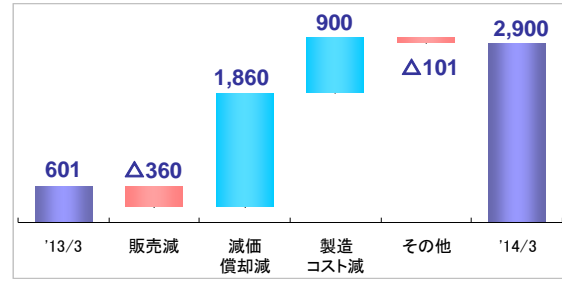
利益: 販売量の減少が軽減されること及び減価償却費が前回想定よりも減少すること等により、前回計画よりも増益の見込み。

売上高増減予測(11/11修正) (百万円)



対前回増減 1,150 690 △40 1,800

セグメント損益増減予測(11/11修正) (百万円)



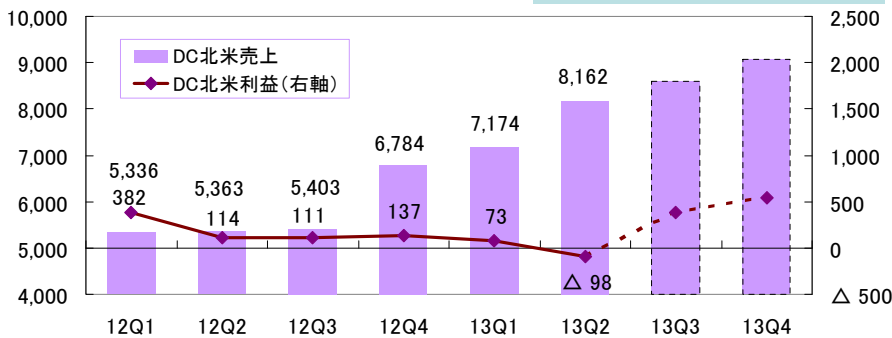
対前回増減 470 260 △10 △170 550



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高/セグメント損益の推移 (百万円)

上期:売上高 15,336、利益 △25
下期:売上高 17,664、利益 925

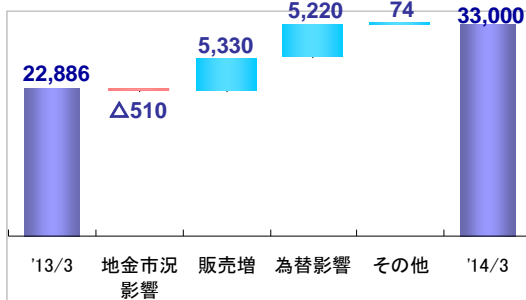


売上高: 地金市況、販売量増の減少等による減収はあるが、金型その他売上増により、前回計画を据え置き。売上は順調に増加。

利益: 前回計画よりもその他利益の改善により前回計画よりも増益の見込み。

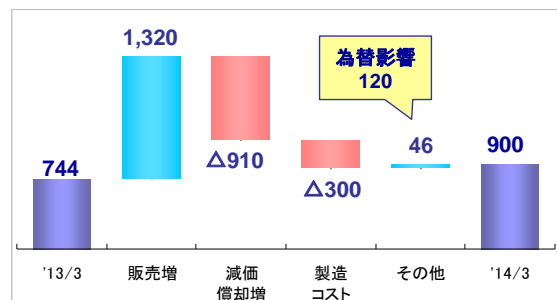
2Qの先行的な固定費負担増があったが、3Q以降、売上の増加に伴い収益性は回復の見込み。

売上高増減予測(11/11修正) (百万円)



対前回増減 △210 △270 △290 770 -

セグメント損益増減予測(11/11修正)(百万円)



対前回増減 △70 20 △90 240 100

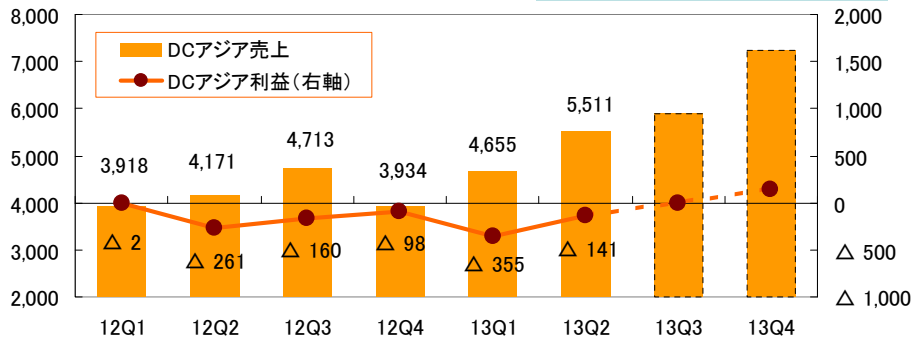


ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高/セグメント損益の推移 (百万円)

上期:売上高 10,166、利益 Δ 496

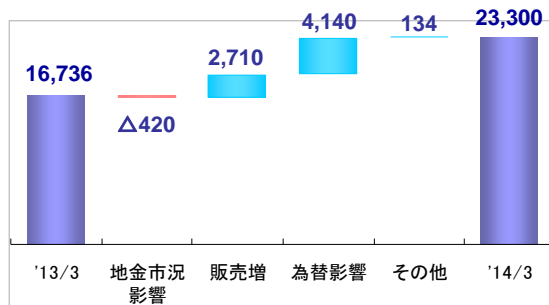
下期:売上高 13,134、利益 146



売上高: 中国及びインドともに、前回計画よりも販売量増による売上増は減少する見込みであり、前回計画比6億円減少。
 前回計画よりも下回るものの順調に増加。

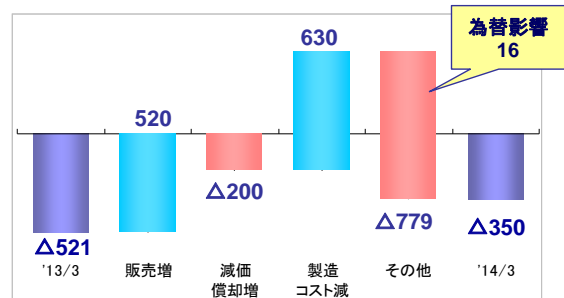
利益: 前回計画よりも製造コストの削減が見込めるものの、販売量減の影響により前回計画よりも減益の見込み。
 売上の増加に伴い収益性は回復の見込み。

売上高増減予測(11/11修正) (百万円)



対前回増減 Δ 140 Δ 560 Δ 40 140 Δ 600

セグメント損益増減予測(11/11修正) (百万円)



対前回増減 Δ 30 110 130 Δ 310 Δ 100



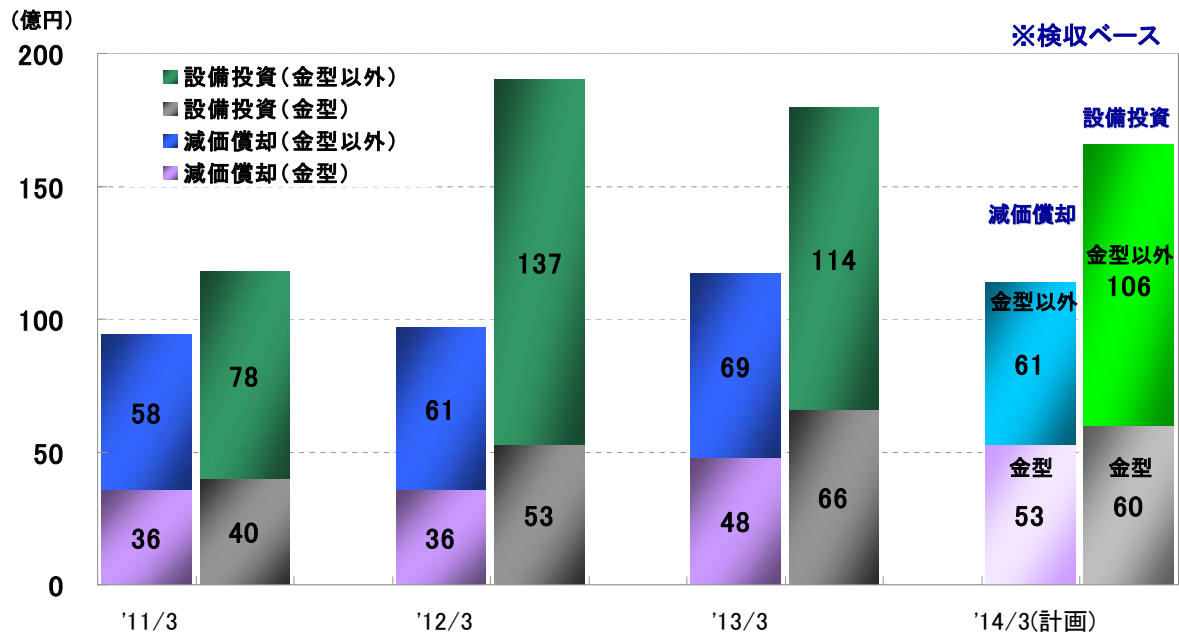
配当の状況

(単位:円)	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期 予想
1株当たり配当金					
(年間)	5	12	6	3	14
中間配当	-	6	3	3	8
期末配当	5	6	3	-	6
一株当たり純損益(連結)	Δ 2.77	68.80	65.87	Δ 7.76	183.10
配当性向(連結)	-	17.4%	9.1%	-	7.6%

- ◆ 2014年3月期は、業績及び記念配を勘案して、年間14円の配当を予想。
 (中間配当は、創業75周年記念配当5円を含む8円を実施)
- ◆ 配当性向には配慮しつつも、今後の成長を勘案した経営資源の配分を推進

設備投資・減価償却の動向

◆海外ダイカスト事業の拡大は進めるものの、従来よりも設備投資を抑制



※2014/3期より、グローバル化の進展を契機に有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法(金型に関しては生産高比例法等)に変更、並びに耐用年数を使用実態にあわせて変更。これにより従来方法に比べて減価償却費が約20億円減少。



Casting Our Eyes
on the Future

株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-5332-6004

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.co.jp

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。